

尚 和 会 会 報

2005

平成17年5月1日

思い出とともに広がる同窓の輪



尚和会総会のごあんない

平成17年5月15日(日) 受付11:30~

ホテルアイボリーにて (豊中駅東口すぐ ☎ 06-6849-1111)

- 総 会 オークッドホール 12:00~12:30
- 立食パーティー オークッドホール 12:45~15:00
- アトラクション 日比浩一

ビンゴゲーム

日比浩一プロフィール

当校卒業生(高32期)1984年京都市立芸術大学音楽学部卒業、同時に音楽学部賞を受賞。その後神戸室内合奏団(現・神戸市室内合奏団)ソロ・ヴァイオリン奏者、関西フィルハーモニー管弦楽団コンサートマスターを経て、2001年4月より名古屋フィルハーモニー交響楽団コンサートマスター。これまでに神戸室内合奏団、テレマン室内管弦楽団、関西フィルハーモニー管弦楽団と共演したのをはじめ、京都、大阪、神戸でリサイタルを開催、NHK-FMにも出演した。また、京都フィルハーモニー室内合奏団客員コンサートマスター、ザ・ストリングス名古屋、井上まゆみピアノトリオ、アンサンブル・ベガのメンバーとしてなど、幅広い演奏活動を行っている。第32回全国学生音楽コンクール西日本大会第2位。

ヴァイオリンを江口邦子、(故)篠原虎一、岩淵龍太郎の各氏に、室内楽を梅原ひまり、岸邊百百雄の各氏に師事。

大阪成蹊短期大学非常勤講師、(社)日本演奏連盟、宝塚演奏家連盟会員。



- 会 費 4,000円 (2001年以降の卒業生2,000円)

Contents

尚和会会長・学校長ごあいさつ	(2)
学校だより	(3)
母校クラブだより	(4)
教職員人事異動・役員紹介・各期連絡先	(6)
通学路点描	(7)
尚和会決算・予算報告	(7)
尚和会通信	(8)
同期会報告	(9)
第4回尚和会東京支部総会・懇親会	(13)
同期会予告	(13)
お便りから	(14)
物故者芳名簿	(15)
平成16年度会報代・協力金	(16)
平成16年度総会・懇親会	(18)

発行——尚和会

発行責任者 田中 渡

編集責任者 大島 光昭

尚和会の更なる活性化を求めて



尚和会会長

田中 渡

陽光に若葉が輝き、そよぐ風に新緑の息吹を感じる候を迎え、皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は尚和会活動に格別のご高配を賜り心より御礼申し上げます。

さて、数年前には財源が減少し先行きが危惧されましたが、会報有料制度をとりいれ皆様のご支援のもと、健全な財政諸表をご報告できるようになりました。しかしながら一方では会員相互の情報交換の機会が少なくなり、活動に先細り現象が心配され始めました。その対応として、周年同期会開催助成金の支給や会報の五年ごとの無料発送で挽回を期しております。

さらに今後の取り組みとしては、更なる活性化を求め、若い世代の会員の参画を期待してホームページの作成を企画しています。昨年、仮称活性化委員会を立ち上げ、数回理事の有志の人たちにお集まりいただき、意見交換し討議を重ねてまいりました。多数の会員からホームページの開設が急務ではないかと具申され、過日の評議員会で承認いただきました。三年間の期間限定の中、試行錯誤をくりかえしながら、いずれ近づく創立七十周年事業をみずえて、ホームページの開設に向けて検討し研究を重ね試行していく予定です。このホームページの立ち上げに関心を持ち、ご支援いただける有志の方はぜひご協力をくだされば幸甚かと存じます。

尚和会会員の皆様のご健康とご活躍を祈念し、併せて今後ともご指導とご鞭撻をお願い申し上げます。

桜塚高校に集う一員として



桜塚高校校長

西郷正人

今年の春は、正門にある「枝垂れ桜」と校舎沿いや「恩露園」の「ソメイヨシノ達」が同時期に満開を迎え、華麗にその美しさを競い合っております。

尚和会会員の皆様におかれましては各界で益々ご活躍のこととお慶び申し上げます。また、平素より桜塚高等学校の教育活動に温かい想いとご支援を頂戴し誠に有り難うございます。

私はこの四月一日付で十一名の先生方と一緒に、「趣き深い伝統の、元氣溢れる桜塚高等学校」に赴任いたしました。更に四月八日の入学式には全日制二百八十一名、定時制九十二名の生徒達が、府下でも特に厳しかった本校の試験を乗り越え、桜塚高校生の新たな仲間として元氣な姿を見せてくれました。また、この全日制定時制の両式典には高女第一期生越水ユリ様が凛とされた中にも優しさ湛えてご臨席くださり緊張いっぱいの後輩達を温かく見守って頂きました。

創立時からの校訓「**明朗・敬虔・奉仕**」の精神は今もしっかりと受け継がれており、現在の桜塚高校生は屈託もなく明るく、積極的で、友を思いやる優しい心と強い責任感、そして何事に対しても骨惜しみしない姿はそのまま

で、勉強も良くするし部活動や生徒会行事の活動も非常に盛んです。定時制においても、この四月より生徒の興味や意欲を引き出し、「頑張り場の場」の一つとして「〇時間目授業」と「土曜開放講座」がスタートします。

校長としてこれからの桜塚で展開される「生徒達の元氣さ」を先ずは楽しみとさせて貰うと共に、地域に愛され、支えられている桜塚高校を今後とも、より進化させ発展を続ける桜塚とすべく、今桜塚に集う皆さんで、元氣な汗をかいてゆきたいと思っています。

三万二千名を超えられる尚和会の皆さんが見守って頂けることは、桜塚高校にとって誠に心強いものでございます。今後ともいっそうのご指導ご支援をお願い申し上げます。

ご支援に感謝



前桜塚高校校長

長瀬 尚

三年前の三月三十一日、事務引き継ぎに訪れた日の校門で、やわらかい春の光の中、満開の桜に華やかに飾られた校舎を、思わず立ち止まって眺めたのが昨日のことのようです。今振り返ってみると、卒業生の皆さんも生徒達も、この学校に集う人は皆、あの光景そのままに暖かい、それが桜塚高校でした。

勉強に、部活動に、学校行事にと生徒達はよく頑張りました。学力は年々向上し、大学進学など進路実績も大いに伸びています。各クラブとも立派な実績を上げています。体育祭や文



化祭なども年々益々盛況です。生徒達の規律性、規範性についても良い評価をいただいています。桜塚の立派な伝統を、教職員の一致した努力を得て、損なうことなく任を終えることが出来たのはありがたいことです。

尚和会会員の皆様には、物心両面で力強くご支援いただきました。心より感謝申し上げます。同時に浅学非才、ご期待に十分添えない面も多々ありましたことをお詫び申し上げます。

後任の西郷校長先生は学識、経験ともに豊富でお人柄も優れ、教職員が一丸となつて桜塚高校の教育を大きく向上させていくうえで、この上ない校長です。生徒達は今後、持ち味を伸ばし、豊かな高校生活で実力を蓄え、立派な人材に育つてくれ続けることでしょう。最後に皆様方のご多幸、ご健康を心より祈念申し上げます。

「未来へはばたく」定時制

前定時制教頭 森尾 俊三

尚和会の皆様には、平素から定時制の教育活動に、御理解と御協力を賜り

まして、誠にありがとうございます。定時制の課程は、平成十七年度より単位制・普通科として新たな一歩を踏み出します。新しい定時制の課程として、皆様の期待を担い、責任は一層重大になります。この四月から、土曜講座を始め、ゼロ時限目授業（始業前授業）を行います。類型・選択講座等も開講し、新たな定時制教育の可能性を追求し、生徒の自己実現を図る場として、さらに努力をしてまいります。

昨年度新しい桜塚高校定時制課程のイメージポスターと学校案内ができました。筒井弥生さんと中野瑠美（十五年度卒）さんの美術漫画研究部の二人による作品です。桜塚高校の象徴である桜を配置し、手で夢をつかもうとしている生徒を描いています。「夢をかなえる」「未来へはばたく」というフレーズで、桜塚高校定時制で学ぶことにより、夢をかなえ、未来へはばたいて行つてほしいという願いとともに、未来へはばたく桜塚高校の定時制の姿も象徴しています。

平成十六年度には、日系ブラジル人で三重県国際化対応指導員の具志・アデルソン・飛雄馬さんによる「死んだら終わり、だから生きるんだ」という講演や「その道の達人」の出張授業で、大阪経済大学教授西山豊さんによる、必ず手元に戻るブーメラン作りの



実習と理論の解説等、普段の授業とは異なる新しい試みもいくつか導入し、大変好評でした。生徒にとって「新鮮で、非常に刺激を受ける。真剣で、楽しい授業」を行うことができました。

昨年度の部活動では、バドミントン部と剣道部女子が全国大会、近畿大会に出場。バレーボール部男子・女子各大阪大会三位。囲碁部女子近畿大会三位。生徒秋季発表大会では、書道の部で定通教育振興会賞、定通教育研究会賞を受賞。工芸の部及び芸能発表の部で、各奨励賞を受賞等、活躍しました。

この四月には、四年制課程の男子二十四名、女子九名、三年制定通併修課程男子八名、女子十二名、合計五十三名が尚和会の会員に加えていただくことになりました。今後ともよろしくお願い致します。

学校だより

進路状況報告

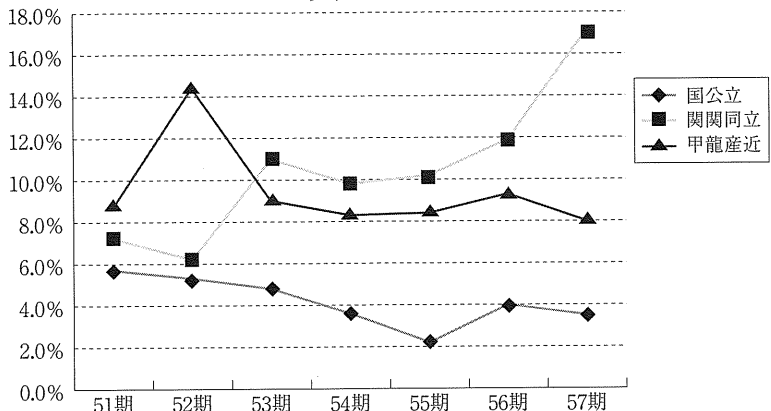
進路指導部長 松井 常喜

本年度は国立大学の法人化など様々な改革の法改正が実施されました。また、各大学は国公立を問わず、従来の入試制度の変更だけでなく、学部・学科の組織再編成など、大学内部側からの改革も多方面にわたり実施しています。本年度入試から、大阪府立大学・大阪女子大学・大阪府立看護大学の三校が大阪府立大学として再編統合されました。大学の判断基準は偏差値だけでなく、各大学がどの程度の教育力を備えているかという点が重要な要素になる時代になりつつあります。

今年の卒業生五十七期生（三二〇人）

の進路状況ですが、八割以上の生徒が四年生大学への進学を希望しています。最近の生徒の進学先は従来の文系・理系学部に加え体育系・芸術系・福祉系など多様化していますが、希望者の七割、全体の六割の生徒が「関関同立」「甲龍産近」を受験しています。実際の進学先はグラフに示されている通り、五三期で「関関同立」の進学者数が「甲龍産近」の進学者数を上回りました。そして、今年は「関関同立」の進学者数が大きく増加しました。久しぶりの大阪大学理学部への現役進学者一名も含め、グラフに示す大学へ約九〇名が進学しています。大学名だけでは判断できませんが、進学実績は着実に向上しています。

現役生の進学率



通り、大学も大きく変わろうとしています。単なる出口を決定する進路指導でなく、努力すれば実現できる環境のなかで、本当に勉強したいものは何かを一年生の時から考えさせる進路指導を実践していきたいと考えます。

五十七期生とともに歩んで

第三学年主任 荒西 克招

「五十七期生は皆心優しく、何事にも熱心に取り組む事ができ、ここぞという時のふんばりやパワーは本当に素晴らしいものでした」（答辞より）
ついで一週間前の卒業式を思い出し

国公立大学		主な私立大学	
大阪大学	2	関西大学	78
大阪教育大学	4	関西学院大学	17
大阪外国語大学	1	同志社大学	13
大阪市立大学	3	立命館大学	14
大阪府立大学	2	甲南大学	40
神戸大学	2	龍谷大学	36
兵庫教育大学	2	京都産業大学	5
京都工芸繊維大学	3	近畿大学	53
京都教育大学	1	同志社女子大学	4
京都府立大学	1	神戸女学院大学	1
京都市立芸術大学	1	武庫川女子大学	13
奈良県立医科大学	1	関西外国語大学	12
奈良県立大学	1	京都外国語大学	8
和歌山大学	1	桃山学院大学	10
北海道大学	2	大阪経済大学	12
徳島大学	1	追手門学院大学	10
鳥取大学	1	佛教大学	6
愛媛大学	1	大阪工業大学	7
山口大学	2	大阪芸術大学	9
愛知県立芸術大学	1	大阪体育大学	6
山形県立保健医療大	1	関西福祉科学大学	13

ながらこの文章を書いています。

五十七期生は男子の志願者が多く、入学者も男子が十六名多い学年でした（桜塚高史上、初？）。一クラス多かった五十六期と男子の人数は同じ。大変元気がよく、幼い所もあり、時には狭い教室に収まり切らないほどパワーで、「沢山叱られ」（答辞より）た反面、大変素直で、私たちの指導によく応えてくれ、骨は折れるが、やりがいのある学年でした。また、私たち自身が試された学年でもありました。若い諸君のパワーを全身で受け止め、夢中で取っ組み、気がつけば卒業式を迎えていたという感じがしています。

思い出は入学式以来、数々あります。一年の球技大会や合唱コンクール、二年の石垣・西表への修学旅行、文化祭、体育祭。日々の授業や終礼、ホームルームなどでの一コマ一コマ。中でも庄巻だったのは三年の体育祭です。爽やかで目一杯手抜きなくとことんやるのが五十七期流とばかり、その持てる力を全てぶつけ、ブロックカラー、衣裳、旗、踊りなどにテーマの一貫性があり、見事でした。「体育祭で一番感動的だったことがあります。それはお互いのブロックのパフォーマンスを讃え合っていたということです」（答辞より）

この力が夏以降、勉強にも現れ、担任や教科の先生方の補習、講習などに生かされていきました。

そして迎えた卒業式。答辞の中での一組から順に担任への三十秒メッセージに心優しい桜塚生の伝統を五十七期生もしっかり引き継ぐ者であることを証してくれました。

「ばいぬ島」の修学旅行

第三学年主任 村尾 亮

昨年の十二月、五十八期生は修学旅行でサンゴ礁に抱かれた「ばいぬ（南）島」、八重山諸島に行ってきました。

ここ数年の本校の修学旅行先を見てみると、五十三期生が北海道、五十六期生がシンガポールだったことを除くと沖縄方面が多かったようです。もっとも五十五期生は沖縄に行くつもりで準備を進めていたのですが、アメリカでのテロ事件により急遽デイズニーシーと横浜方面に変更になりました。

私たち五十八期生も最初は五十六期生にならって、中国・韓国など海外への修学旅行を考えていましたが、折悪くSARSと鳥インフルエンザ騒ぎが起きて残念ながら海外はあきらめることになりました。

沖縄方面と言っても、沖縄本島は中学の修学旅行で行った生徒もおり、本校では八重山諸島の石垣島を中心に、毎日フェリーで西表島・竹富島・小浜島・嘉弥真島・由布島などに渡り、それぞれの島で楽しく体験学習を実施しました。

今回は「バスに乗って観光地巡り」という古いパターンの修学旅行ではなく、那覇国際通りでの昼食と買い物、



竹富島でのレンタサイクルによる島内巡り、石垣島の離島桟橋からホテルまでの散策など、生徒の自主性に任せた自由行動の時間が多くありました。実際バスに乗ってのクラス単位での行動は、石垣島の島内観光で三時間ほどだけでした。なかでも最終日の夕食はホテルの都合もあり、ミールクーポンを使ってホテル内の五つのレストランで好きな時間に好きなものを自由に選んでとるという形式で、生徒にも大好評でした。

このような形態の修学旅行であったため、生徒全体を集めて連絡や注意をするというタイミングがあまりなく、必要なことはすべて出発前の説明会と生徒自身が「しおり」を随時参照するということと済ませました。生徒たちはこの趣旨を良く理解して行動してくれたと思います。

体験学習は「ダイビング・シュノーケリング」（全身ずぶ濡れ）、「カヌーによるエコツアー」（半身水浸し）、「ジャングルクルーズと水牛車」（全く濡れない）と、生徒の希望により三コースに分かれて実施しました。それぞれ現地のインストラクターの親切な指導もあり、生徒達は貴重な体験をしてくれたことと思います。

強風と雨のため石垣空港に着陸できず、飛行機が三十分も旋回し続けたこと、西表島への高速フェリーが荒波にもまれ、多くの生徒が船酔いになったことなど、天候による多少のアクシデントもありましたが、予定を変更しなればならないほどのこともなく、今となってはそれも楽しい思い出の一部として、生徒達の心に残っていることと思います。

母校クラブだより

野球部の近況

顧問 和田 充奇

二〇〇四年度になり、迎えた春季大会において、八尾に8対3、茨木に4対0、大教大池田に6対0、上宮に11対3（八回コールド）と、いずれも快勝し、ベスト8進出を果たしました。準々決勝の相手は、六年前の夏に決勝で敗れた関大一高でしたが、5対2で完敗。雪辱はなりませんでした。

そして、五十七期生最後の大会となる夏の大阪府予選では、初戦の枚方西に10対0でコールド勝ちし、次の相手はまたしても関大一高となりました。今度こそその思いで臨んだ試合でしたが、結果は7対0で無念のコールド負け、でありました。

夏休みから、新チーム（二年十九名、一年十五名）での練習をスタートさせ、京都府峰山町での合宿や練習試合を重ね、九月の秋季大会を迎えました。ここでは、初戦でいきなり東海大仰星との対戦となり、中盤までは何とか食らいついたものの最後は突き放され、9対2で八回コールド負け。

こうして改めて一年を振り返ってみると、やはり私学の壁は厚い、と感じざるをえません。また、大勝するか大敗するか、という結果に終わっており、どんな相手でも接戦にもちこめる（そしてそれをものにできる）ような、チームの意識改革、体質改善が急務であることも浮かび上がります。

就任以来、「普通の高校生がどこまでできるか」をテーマに、取り組んできました。そのために、まず、普通の

桜塚高生であることを部員達には常に求めています。そして、そんな中でそれなりの、ある程度の成果は残せた、とは思っています。しかし、「こまこま」とは思いたくありません。何より、部員には思っほしくありません。

ラグビー部

顧問 渡辺宗治郎

ラグビーに賭ける熱意がみなぎり、個性派ぞろいの五十八期生と球技センスの高い五十九期生、地道にサポーター役をこなすマネージャー達によって日々充実した活動を実践している。

昨年からメンバーが多いこのチームは、経験豊かでゲームの組み立てが上手なのが魅力である。

また、北摂の各チームから注目される存在にあり、この夏は大きく進化成長することが期待される。

短時間の制約の中、高橋キャプテンと佐々木バイスのリーダーシップの下で常にゲームを意識して練習に無駄を省くこと、また状況判断できるコンセプトを挙げることで選手自身が明確な目標を持って練習に取り組んでいく。

日頃は気のいいやさしい男達がゲームでは豹変する様は実にラグビースピリッツそのもので、頼もしさを感じる。今後は得点力の向上に努め、プレイヤー自身も見ている者も楽しいラグビーを目指し、強豪と言われる一角を倒すために実戦練習ができるだけの部員確保が課題である。

陸上部

マネージャー 木岡 静穂

陸上部は現在男子十四名、女子十名、マネージャー二名「笑顔で練習」をモットーに毎日放課後練習しています。陸上部は男女共に仲が良くみんな日々励まし合いながら頑張っています。昨年五月に行われた地区予選ではそれぞれがベストを尽くしました。私たちが目標としている「自己ベスト」は達成できましたが、結果は惜しくも近畿大会出場を逃がしました。しかし、私たちに「近畿大会出場」という新たな目標ができました。八月には鳥取に合宿に行き、過酷な練習に励みました。

先輩方の引退後、十一月、一月には駅伝がありました。昨年までは女子長距離のメンバーがいまいませんでしたが、今年から女子長距離のメンバーが増え、女子も駅伝に参加することができました。しかし女子は長距離のメンバーが少ないため短距離からの応援で参加し、一本のタスキを最後までつなぎ、男女共ベストを尽くしました。冬にはシーズンオフとなる短距離は筋トレ中心のメニューでシーズンに向けて体力づくりに励み、精一杯頑張っています。

四月からシーズンに入り記録会、インターハイ地区予選、中央大会、総体など年間を通じて多くの試合が始まります。昨年はケガをする選手が多く、自分の持っている力がなかなか発揮できませんでした。三年生は今年で引退です。悔いの残らない引退にするためにも、それぞれが自分自身の目標を高く持ち、日々努力していききたいと思っています。

女子バレー部

顧問 津田 康裕

五十七期生はよくがんばった。他校と比較して、一時間あまり少ない時間で、中味のある練習を続けた。昼練習も自主練習の形態でスタートしたが、勝つ意欲が定期的な練習へと移行した。たった三十分しかないが、一つのスキルを五日間続けられ、二時間三十分の集中練習になった。

女子のクラブは指導者がコートにいない時と、いない時では様子が一変するものだが、このチームは違ったように思う。それは、やらされる練習に終始していれば、二つの顔が交互に出るものだが、このチームは自分の目標を自力で達成しようとしたので裏表がなかったのではないだろうか。

五十七期生が自分たちの代になってから、大阪総体で刀根山高校にワンサイドで負けるというスタートを切ったにもかかわらず、引退直前にはこちらのペースで試合が運べるようになった。

昨年の四月には、部別大会で優勝し、二部に昇格した。どの試合も危ない内容で、桜塚のチーム力向上を感じた。時間のハンディを自分たちの努力で克服できたことに大いに自信をつけたものと思える。

そして、何よりも評価されているのは、六月の引退後も足繁くコートに通って後輩を指導したことではないかと思う。自分たちの現役時代にがんばる人はどこにでもいるが、プレーを終えた後に、チームの為に時間を使う姿はこの上なく尊い。

五十八期生のチームは、先輩の意志を見事に引き継いでいる。練習に取り

組む姿勢は一学区でも抜き出ている。その成果は、大阪府立高校大会でベスト十六に進出したことや、練習試合で府下ベスト十六レベルのチームに勝てるようになったことに現れている。

五十七期生の土台に、五十八期生が乗っかり、次の五十九期生で見事な建物になる。伝統は作られる。

女子バスケットボール部

顧問 高橋 俊行

平成十六年度においては、中学校の女子バスケットボール部が来られて、合同練習をする事が増えました。豊中市のみならず、箕面市、池田市、大阪府からも来られ、桜塚高の部員が中学生を指導する。という練習会が増えました。高校間においても合同練習の機会が増え、福井県の若狭高、藤島高や兵庫県、大阪府の高校十五校程のチームと合同練習を、繰り返し行っています。

卒業生が増えてきて大学でプレーしている者、教員採用試験に合格してバスケットボールを指導している者など、違う環境でバスケットボールに関わってくれています。また時間に余裕が出来るよう練習に参加してくれ、現役と一緒に汗を流してくれている卒業生も多くなります。

部員達はケガに悩まされながらも練習に励んでおり、今年度の活躍が期待されます。

硬式テニス部

顧問 木下 義男

一、二年生の男子と女子部員だけで六十人を超す人数で、しかも男子は四十人近くで他校に比べると、コートで打てる時間が少なかったように思える。そんな条件でも、部員達はよくが

んばっていた。

大阪高校春季大会、男子団体戦では、予戦を勝ち上がり、本戦へ進出した。本戦は、くじ引きによる対戦で、何と最もあたりがなかった、全国大会常連校の清風が初戦の相手となった。

しかも、みんなが注目するセンターコートでの対戦である。しかし、試合が始まると、最初のダブルスで五十七期生の幸野、丹羽コンビが先にマッチポイントにぎり、結果的に7-5のスコアで惜敗したが、清風をおおいにあててさせた。続くシングルの五十三期松尾と三宗は、相手が全日本で優勝した選手等であり、善戦したが、及ばなかった。大会は、その後、清風が圧勝で優勝した。桜塚はベスト三十二よりであった。しかし、全国レベルの学校と対戦したということと、その学校にダブルスの試合で勝ちかけたという事は、生徒達にとっていい経験となり、自信となった。女子の方もがんばっています。

バドミントン部

顧問 岩澤 格

二〇〇四年度の部員は、三学年合わせて二十七名（女子十七名、男子十名）で、近年にない大所帯となった。三年前までは、女子のみのクラブで、一時は七名にまで落ち込んだが、現三年生（五十七期生）の男子が入部して以来、部員が増えている。

また一昨年六月より外部からコーチを招へいし、週一回技術指導を受けている。日頃の体力作りの方法や、プレー上の心構えなど幅広い視点から熱心な指導を受け、その成果が徐々に出てきている。昨春秋の豊能地区大会で

上位入賞を果たした。

大所帯故の悩みもある。体育館割り当てが週二回（しかも月曜日は短時間）、そのため十分な練習時間が確保できないことである。他の顧問（計六人）の方々の協力を得て、土・日・休日の練習を保障することで補っている。

全般的におとなしいが、全員で意欲的に練習に取り組んでいる。「自分の力はここまで」と見切るのではなく、さらに高いレベルに挑戦する気持ちを持って欲しい、と願っている。

OBの皆様、また学校にお越し下さい。お待ちしております。

音楽部

顧問 河村 光子

この会報をお読みになっておられる方の中には、音楽部が大活躍していた頃をご存知の方も多数いらっしゃるでしょう。

吹奏楽は盛んになりましたが、合唱はいまひとつ元気がありません。私が本校に赴任した七年前には部員ゼロで廃部寸前というところでした。授業では楽しく歌に歌い、美しいハーモニーを作ってくれていたもので、何とか音楽部の生命を絶やさずにとの願いが生徒に届いたのか、三人の一年生が入部してきました。人数はなかなか増えませんが、文化祭や新入生歓迎会などで歌うことにより少しずつ前進しています。

今年の一月には六名で、合唱連盟主催のヴォーカルコンテストに初参加し入賞しました。人数も少ないので選曲にも悩みますし、生徒の自主運営する部にはまだ少し道のりがありますが、一歩ずつ歩いていきます。小さなステージでも、それに全力で取り組むことで実力もつ

ていくのではないかと思います。

現在音楽部の練習は小さな部屋でピアノを囲んでやっていますが、この部屋が狭くなつて困る日が早く来てもいいものです。

朝鮮文化研究同好会

顧問 鎌田 順子

朝文研は、朝鮮半島の歴史・文化を学び視野を広げること、その活動を通して少しでも多くの人に朝鮮文化に触れてもらうことを目的として、本年度四月に発足したばかりの同好会です。

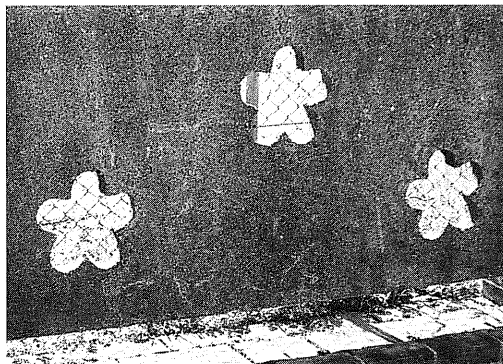
その大きな目標は文化祭での発表でした。演目は「ソルチャンゴ」。「ソル」は「一つの」を表わし「チャンゴ」は民族楽器の名前なので「ソルチャンゴ」は「チャンゴだけで演奏する」という意味です。楽器は全て大阪市立宮原中学校からお借りしました。

予定では夏休みから練習を始めるつもりでしたが、メンバー全員が三年生ということもあり、なかなか思うように進まず、間に合うのか不安でした。しかし、いよいよ九月に入ると新メンバーも加わって、毎日昼休みを中心に練習にも熱が入ってきました。ほとんどのメンバーが楽器に触れたこともなかった上、クラスの出し物や勉強との両立が大変でしたが、徐々に上達し音も合うようになりました。

そして当日、朝文研の紹介や楽器の説明をした後、見事に息の合った演奏を多くの観客に披露することが出来、大成功でした。短い練習期間にもかかわらずよくやったと思います。生徒たちも友だちから「迫力があって良かった」「違う一面が見えた」と声を掛けられ、頑張って発表して良かった

と十分満足したようです。

韓国語やその他の文化も勉強したいと考えていた生徒たちでしたが、遂に実現しないまま今日に至っています。そして目下の悩みは後継者がいないことです。せっかく発足し成果をあげたのにこのまま終わってしまうのは残念です。生徒の皆さん、少しでも興味のある人はこの機会に入部しませんか？



豊中高女時代の名残り

学天

gakuten.com

学天サポートセンター
0120-888482
【受付時間】 平日10時～17時、土日祝除く

インターネットで学べる充実したコンテンツ

- 学校教育
小（国・算・理・社）中（英・国・数・理・社）高（英・国・数・日本史・世界史）道徳など
こども科学ミュージアム、英会話、能力開発など
- 資格試験対策
介護福祉、パソコン検定、自動2輪免許、普通自動車免許
就職支援、初級シスアド試験、理学療法、看護など
- 教養・趣味
パソコン&インターネット講座、Word・Excelの基礎
英会話、ビーズアクセサリー、大学公開講座など
- 家庭・生活・健康
家庭の医学、骨盤スリミング、親子で学べるクッキング
洗濯掃除のコツ、ガーデニング（園芸）など20講座

KOSAIDO

株式会社 廣済堂

大阪府豊中市蛍池西町2-2-1 〒560-8567 TEL06-6855-1100 FAX06-6855-1324

平成17年度 評議員会及び理事会予定表				
評議員会				
第1回	17年9月3日(土)	会費制	会場未定	
第2回	18年3月18日(土)	尚和会議室		
理事会				
第1回	17年5月7日(土)	尚和会議室		
第2回	9月3日(土)	会費制	会場未定	
第3回	11月5日(土)	尚和会議室		
第4回	18年1月15日(土)	新年理事会		
		会費制	会場未定	
第5回	3月18日(土)	尚和会議室		

退職		退職	
長瀬 尚(校長)	(向陽台高校へ)	上西 孝志(主担主事務)	(本校定時制へ)
着任		着任	
西郷 正人(校長)	(北淀高校より)	西田 和美(教諭 国語)	(箕面東高校より)
【全日制課程】		田中 淑(教諭 数学)	(吹田東高校より)
退職		桑田 誠(教諭 地学)	(守口東高校より)
松下 勇(教諭 保健体育)	(刀根山高校へ)	森本 雅弘(教諭 保健体育)	(高槻北高校より)
戸田 緑(教諭 英語)	(千里高校へ)	田中 聡(教諭 英語)	(牧野高校より)
転出		藤原 順子(教諭 家庭)	(能勢高校より)
荒西 克招(教諭 国語)	(池田北高校へ)	【定時制課程】	
林 茂幹(教諭 地理公民)	(槻の木高校へ)	退職	
篠田 道寛(教諭 数学)	(箕面高校へ)	中田 勝利(教諭 保健体育)	(本校非常勤特嘱へ)
熊野 純(教諭 地学)	(少路高校へ)	園山 哲夫(教諭 理科)	(本校非常勤特嘱へ)
植田 淳子(教諭 家庭)	(豊島高校へ)	陰山 正信(教諭 英語)	(本校非常勤特嘱へ)
		竹田 彰(主査 事務)	(大阪府非常勤特嘱へ)

尚和会平成十七年度 役員紹介	
会長	高二期 田中 渡
副会長	高三期 中村千穂子 (行事担当)
定八期	田邊 昭夫
高二期	吉田 和久 (総務担当)
高三期	細川 和彦 (財務担当)
高一五期	大島 光昭 (広報担当)
會計監査	定三期 中岸 澄江
會計	高一六期 秋山日東志
高二二期	吉田 友子
高二二期	久瀬 恭子
東京支部長	高二期 齊藤 良和

転出	
森尾 俊三(教頭)	(池田北高校へ)
片山 徹(教諭 理科)	(枚方なぎさ高校へ)
吉村 葉子(養護教諭)	(桃谷高校定時制へ)
着任	
杉本 英世(教頭)	(堺豊学校より)
筒井 康夫(教頭)	(千里高校より)
鈴木 英治(教諭 英語)	(佐野工業高校より)
吉野 達也(教諭 保健体育)	(新採用)
長石 明子(養護教諭)	(新採用)
田中 恵(講師 国語)	(豊島高校より)
三村 仁(講師 理科)	(大手前高校より)
桑原 大祐(講師 体育)	(泉尾高校より)
上西 孝志(主査 事務)	(本校全日制より)

各 期 連 絡 先																
期 氏 名 電 話				期 氏 名 電 話				期 氏 名 電 話				期 氏 名 電 話				
女1	越	水	ユ リ	06-6852-8755	高21	山	本 登志恵	06-6924-3544	高50	笹	岡 哲 治	06-6302-3883	定27	稲	井 幸 雄	072-728-0955
女2	北	川	富美子	0798-74-3024	高22	平	本 裕 一	06-6855-2614	高51	中	村 寿 一	06-6840-0173	定28	真	下 保	06-6385-6190
女3	菅	野	万喜恵	06-6852-0020	高23	後	藤 保 二	06-6373-7380	高52	西	口 達 也	06-6395-1246	定29	寒	川 悟	06-6607-0580
女4	永	井	徳 子	06-6942-1968	高24	梅	田 純 子	06-6329-6309	高53	仁	木 安 範	06-6397-4491	定30	大涯地	みゆき	06-6333-5761
女5	加	藤	恵 美	06-6872-6248	高25	小	合 孝 子	06-6855-3604	高54	岩	本 泰 毅	06-6302-1643	定32	市	村 孝 浩	06-6841-0416
女6	青	木	操 子	06-6843-2552	高26	金ヶ	江 裕 之	06-6852-1224	高55	井	上 大 樹	06-6475-1946	定34	清	水 美 佳	072-761-3323
女7	黒	田	長 子	06-6854-5432	高27	東	克 則	06-6451-3866	高56	亀	井 み え	06-6393-1017	定37	渡	部 二 郎	06-6863-0058
女8	中	村	陽 子	06-6844-1570	高28	市	田 隆 士	0595-52-0715	高57	河	田 充 弘	06-6302-3301	定38	中	村 保	06-6332-7703
高1	安	達	良 子	072-721-3901	高29	山	澤 健 二	06-6399-7677	定1	吉	本 喜代子	072-722-2075	定39	森	本 真裕美	06-6849-7859
高2	菊	池	芙 美	06-6852-4117	高30	木	村 慶 子	06-6853-9213	定3	上	田 孝 彦	06-6853-2162	定41	奥	田 康 弘	06-6388-7339
高3	谷	田	探 成	06-6314-0550	高31	榎	香世子	06-6393-7216	定5	橋	本 昌 員	072-793-7650	定42	菊	永 以 言	06-6853-6044
高4	中	右	吉 信	06-6855-5372	高32	浜	辺 伊都子	06-6866-6789	定6	木	田 隆 幸	06-6864-2452	定43	山	田 辰 典	06-6333-1785
高5	宮	口	一 郎	06-6852-4859	高34	山	口 誠	072-894-1848	定7	川	勝 義 美	06-6854-4997	定44	大	塚 俊 二	072-762-7873
高6	北		まち子	06-6865-3131	高35	川	嶋 道 代	072-729-6099	定8	田	邊 昭 夫	06-6843-0952	定45	大	塩 昇 司	06-6331-5766
高7	長谷川	伸	一	06-6848-1563	高36	安	藤 昌 博	06-6832-7930	定9	中	本 賢 一	06-6854-3550	定46	岡	田 智 寛	06-6333-5996
高8	森	田	司 朗	06-6872-3329	高37	高	崎 建 治	06-6623-6801	定11	永	井 敏 輝	06-6852-0333	定48	野	口 光 弘	06-6393-3669
高9	安	浦	杲	072-737-0068	高38	堀	田 繁	054-248-8078	定12	笹	部 修 造	06-6852-0475	定49	大	鳥 正 登	072-761-1036
高10	唐	渡	吉 則	072-752-4548	高39	須	崎 康 広	072-752-6441	定13	中	岸 澄 江	06-6843-5737	定50	桂	祥 晃	06-6855-2720
高11	吉	田	和 久	06-6857-0352	高40	堂	前 直 子	06-6336-7265	定14	杉	本 土 生	072-728-1497	定51	徳	留 三 香	06-6866-6994
高12	斎	藤	嘉 明	072-738-4647	高41	坂	口 大 介	06-6303-4831	定16	森	島 作 藏	06-6857-6219	定52	本	郷 美由紀	06-6841-0860
高13	細	川	和 彦	06-6849-6879	高42	谷	尾 紀 江	048-946-3601	定17	前	田 政 治	06-6855-8451	定53	山	下 武 徳	06-6857-3239
高14	佐	藤	勝 哉	06-6854-0095	高43	横	尾 さち子	06-6854-0026	定18	中	島 健 二	072-722-8153	定54	山	本 雄 助	072-724-2347
高15	大	畠	光 昭	06-6841-8135	高44	河	野 太	06-6476-1102	定19	飯	田 悦 弘	06-6855-3440	定55	高	橋 秀 彰	06-6852-4438
高16	中	務	公 子	06-6858-4509	高45	澤	田 良 一	072-728-8251	定21	児	玉 幸 子	06-6862-1946	修1	矢	野 和 美	090-1904-0180
高17	福	本	育 馬	06-6333-6636	高46	佐	井 勇 介	06-6391-0995	定22	西	田 惣 一	06-6850-2955	修2	能	勢 優 紀	06-6841-2919
高18	北	川	悟 司	06-6843-1336	高47	佐	藤 英 春	0798-67-1666	定23	豊	隆 司	06-6843-2771	修3	畠	山 貴 徳	072-728-1150
高19	奥	田	敏 輝	06-6843-9397	高48	牧	原 広 宣	072-721-5292	定24	日紫喜	富 美		修4	竹	田 大 河	06-6841-4820
高20	郡		守 男	079-565-2627	高49	乾	正 義	06-6471-6389	定25	大	町 裕 次	06-6862-7083	修5	三	島 祐 貴	072-722-7482



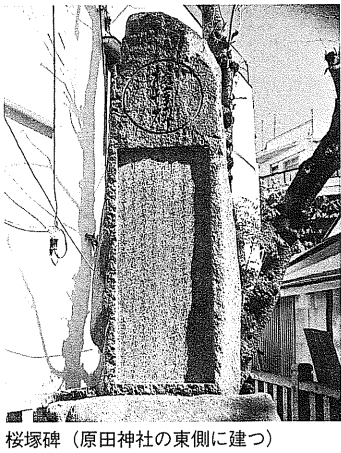
岡町商店街（市役所通り）ここを歩いて通学

阪急岡町駅（平成12年完成）

通・学・路・点・描

尚和会 平成16年度決算報告・17年度予算

[収支決算]		(自:平成16年4月1日 至:平成17年3月31日)		(単位:円)	
	科 目	予 算	決 算	差引過不足	備 考
収入の部	入会金	1,628,000	1,628,000	0	16年3月卒（全日353名、定時54名）@4,000円
	会報代	1,400,000	1,801,000	401,000	1,801名
	尚和会協力金	1,800,000	2,396,050	596,050	1,066件
	広告収入	60,000	0	▲60,000	
	利息収入	200,000	244,798	44,798	
	雑収入	0	359,331	359,331	ほむら野会144,614 旧職員有志の会204,717 名簿
	計	5,088,000	6,429,179	1,341,179	
支出の部	事務費	100,000	9,049	90,951	事務用品
	振込手数料	110,000	120,500	▲10,500	
	通信・交通費	350,000	282,234	67,766	会議案内等の業書印刷、宛名シール、東京支部参加
	会合費	300,000	327,574	▲27,574	理事会及び各委員会会合費
	慶弔費	100,000	55,457	44,543	学校行事祝儀他
	会館維持費	50,000	0	50,000	
	卒業生記念品代	100,000	80,000	20,000	卒業証書入れ
	会報発行費	2,200,000	1,934,030	265,970	11,000部、郵送7,727件
	総会費	700,000	653,183	46,817	食事、アトラクション、雑費
	東京支部援助金	150,000	150,000	0	
	同期会開催助成金	500,000	400,000	100,000	50,000円×8件
	予備費	300,000	0	300,000	
	計	4,960,000	4,012,027	947,973	
1. 差引当期収支		128,000	2,417,152	2,289,152	
2. 前期繰越金		1,590,081	1,590,081		
3. (1+2) 合計		1,718,081	4,007,233		
4. 尚和会積立金等繰入			1,800,000		積立金へ1,000,000円、事業積立金へ800,000円
5. 尚和会積立金等取消			0		
6. 次期繰越金			2,207,233		



桜塚碑（原田神社の東側に建つ）



豊中市役所



母校校舎

[貸借対象表] (平成17年3月31日現在) (単位:円)

借 方		貸 方	
現 金	199,248	預 り 金	1,521,000
普 通 預 金	5,380,477	尚 和 会 積 立 金	15,000,000
定 期 預 金	12,614,508	尚 和 会 事 業 積 立 金	9,000,000
定 額 貯 金	9,272,000	次 期 繰 越 金	2,207,233
未 収 入 金	212,000		
仮 払 金	50,000		
合 計	27,728,233	合 計	27,728,233

以上、報告いたします。

平成17年3月31日

財務担当副会長(高13期)

細川和孝

会 計 (高12期)

久瀬恭子

会 計 (高12期)

吉田友子

監査の結果、誤りの無いことを報告します。

平成17年3月31日

会計監査 (定13期)

中岸澄江

会計監査 (高16期)

秋小日東志



生徒通用門

尚和会通信

広報担当副会長 大島 光昭

一、尚和会会報の

無料配布

(卒業後五年毎)
(再掲)

無料配布対象期

その期が、卒業後五年経過ごとに、住所判明者を対象として全員に送付する。

目的・理由

会報有料制は、約二万人にも及ぶ無料配布の結果財政が逼迫し、やむなく採られたものであります。これを機に多くの会員の方が危機を認識され、それ以降会報代・協力金が増加し毎年プラス収支に転じることができました。一方、会報代納入を一度忘れられる

とそれ以降会報が発送されなく、尚和会の先細りの懸念が生じはじめました。これを防ぐ手段の一つとして、財政の許す範囲という条件付きで平成十五年度より実施中です(効果が無ければ、見直すこととなります)。

お願い

会報有料制は引き続き継続されますので、無料配布に当たる期の方も、会報代・協力金は引き続き宜しくお願いいたします。

また、ちようど各期が五周年単位に当たる年の五月に、その期に対し会報が無料で送付されますので、「同期会開催予告」として二月末までに会報の原稿を寄せていただければと思います。

二、「同期会開催支援奨励
助成金制度」
(再掲)

一、目的

新生尚和会を構築し、創造的な事業活動を展開するために、同期会の活性化に取り組む必要がある。その意味で、同期会の開催を支援、奨励する目的の制度である。

二、助成金交付対象期

尚和会会員が同期会を計画、開催実施しようとするもので、その同期会が卒業五周年以降五周年単位で開催される期であること。なお、卒業後最初の同期会が右記の周年でなくても助成金を交付する。

三、助成金の額

五〇、〇〇〇円とする。

四、申請の手続き

開催する同期会の代表幹事が書面(同期会助成金交付申請書)にて、尚和会会長宛に同期会開催一ヶ月前迄に提出又は郵送する。

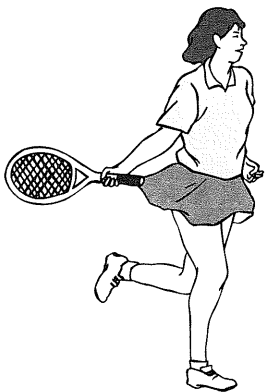
五、助成金の交付

「同期会助成金交付申請書」受理後速やかに同期会開催迄に支払う。
平成十三年度九月一日施行

なお、同期会に対する助成は同じ期が同じ周年時期に複数の場所で開催されても、尚和会からの助成金交付は、その期に対して一回限りです。また、クラス単位での開催も対象外です。

三、在校生クラブ活動に
報奨金制度
(再掲)

クラブ活動に顕著な成績を残したクラブに、活動費の一部を助成する制度です。助成対象は府下大会にて優勝またはそれに準ずるものとします。
在校生諸君の活発な活動を期待します。



個人情報保護対策について

尚和会では、会の運営に必要な皆様の個人情報をお預かりしています。お預かりする個人情報は個人情報の保護に関する日本の法令その他の規範を厳守して以下の目的の範囲でのみ利用いたしますので、何卒、ご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

■利用の目的について

- ①尚和会会報の発行・発送
- ②各役員会開催案内等の告知文書の発送
- ③尚和会が会の運営を遂行するにあたり、必要とする年会費徴収
- ④その他、会の活性化を図るため、必要と思われる作業等合法的な目的のために活用する場合

■ご提供いただいた個人情報については、尚和会が責任を持って管理いたします。

■尚和会は、ご提供いただいた個人情報を正確に処理いたします。

■尚和会では、信頼に足ると判断した外部の企業に、個人情報のデータ処理ならびに発送作業を委託することがあります。

■ご提供頂いた内容は、本人の承諾なしに学校・同窓会関係者以外の第三者に開示することはありません。

ただし、以下のような場合は、例外として情報を開示できるものとします。

- ・法令の規定による場合
- ・ご本人ならびに公衆の生命、健康、財産等の重大な利益を保護するために必要な場合。

■個人情報は、原則として本人にかぎり、開示・訂正・削除を求めることができます。

お問合せ先
〒561-0881 豊中市中桜塚4-1-1
大阪府立桜塚高等学校内 尚和会事務局
TEL06-6853-2244/FAX06-6853-0825

	高女 1期~8期	併中 1期~2期	高 1期~57期	定 1期~55期	定通併修 1期~5期	旧職員	現職員	現職員 (定時制)	合 計
会 員 数	2,061	229	26,022	4,201	66	711	36	19	33,345
物 故 者	363	18	618	88	0	146	0	0	1,233
住所不明者	241	31	5,576	2,061	8	180	0	0	8,097
住所判明者	1,457	180	19,828	2,052	58	385	36	19	24,015
判 明 率	88.3%	86.5%	78.5%	50.9%	87.8%	74.6%	100.0%	100.0%	75.7%

尚和会会員数 (単位:人)

同期会報告

豊中高女一期生会

日時：平成十六年七月十一日
場所：新大阪ガーデンパレス

梅雨明け前の日曜日、よくぞお運びくださいました。八十歳ですぞ！なんとも自分がかわいくて、ほめてやりたくありません？。いろんなことを、かいくぐって私達の現在があります。なんとか歩いて、おしゃべりができ過ぎて、おいしいものが大好きな一期生です。明朗・敬虔・奉仕の心が今でもシンにあるので、こんな笑顔でいられると思います。

来年はみんなが満八十歳になる三月末に大パーティをいたしましょう。



と言っても、そんなにぎょうさん食べられへんし、モーレツダンスもでけへんと思うし、まあそこそこやりましょうね！

それにしても横田さん残念でした。さようなら。

幹事（旧姓）二宮、筒井千、古川知、山本紀、村辻

豊女三期生会
卒業六十周年記念

日時：平成十六年十月八日（金）
場所：ホテル竹園芦屋

出席者：六十七名

朝から小雨が降り出しましたが、会場がJRの芦屋駅のすぐ側という便利もございまして、御遠方からも沢山来て下さり、六十七名と云う大勢の出席となつて六十周年に相応しい会でございます。次々と会場にこられ、何十年ぶりの方、卒業以来はじめての方もございまして。お顔とお名前がすぐ判るようにと旧姓と新姓を書いたミニズクの可愛らしい名札をつけていただきました。永野さんの御挨拶から始まり、先ず亡くなられた恩師、級友を偲び黙祷を捧げました。会計報告の後には夫々テーブルに着き乾杯！マイクが廻りはじめ自己紹介、近況報告等、思い出話に華を咲かせました。食事の終わる頃に、卒業以来はじめて校歌を歌いました。戦時中の歌の事、言葉、詩の難しいのに改めて驚き、はじめ小さかった声もだんだん大きくなり、とてもなつかしい思いに浸りました。語り合う声もだんだん大きくなり、お話は尽きずホテル側にお願ひして四時迄延長していただきました。

入学当時、体育館はまだ出来上が



っておりませんでした、赤瓦の屋根、緑色の壁、カラン、コロソ、カラシと鳴る三つの鐘の響きの何と心地良い校舎でしようと、感無量でございました。明朗・敬虔・奉仕（当時のモットー）はその日から始まり、女子鏡の本はいつも側にありました。太平洋戦争がはじまってからは、防空救護の訓練、畑仕事、軍隊への奉仕等、お国の為に働きました。先生方を戦地へ送り出し、食堂での食事と日の丸弁当に、蛋白質には兎の肉となり、謝恩会では大きなお釜で自分達の作ったさつま芋を一杯蒸かしました。なつかしい思い出が一杯になります。

卒業から六十年夫々の人生を歩んできました。今こうして皆様とお逢い出来ました事、そして素晴らしい学校で教育を受けた私達は、何よりの幸せと深い感謝の気持ちで一杯でござ

います。何か又機会がございましたら語り合いたいと存じます。当日は行き届かない事もございまして事と存じます。お許し下さいませ。

幹事 永野、夏川、古川

高女四期生会

日時：平成十六年五月二十四日
場所：神戸メリケンパークオリエンタルホテル

梅雨のはしりの様な日が続いて心配していましたが、当日は素晴らしい晴天に恵まれ、震災復興目覚ましい神戸の港が一望出来る。メリケンパークオリエンタルホテルで同期会を開催致しました。

東京、四国と遠方からも御出席

いただき、結婚式の写真室で少し緊張



気味での撮影に始まり、海側のテラスのある明るい披露宴会場の円卓を囲んでの和気藹々の一時、アツと云う間に夢の様な時間が通り過ぎ、お名残を惜しみつつシャトルバスに乗り込まれた皆様に手を振りお別れ致しました。

来年は六十周年記念の同窓会、又皆様の素晴らしい笑顔にお会い出来ます様楽しみにしております。

幹事 川崎美美、池長十三子、木下時代、平山美津子、山崎愛子、岡部佳子

平成十六年九月 清瀬郁子様（旧姓住田）逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

豊女七期生
高校一期生同窓会

日時：平成十六年七月二十六日
場所：宝塚ホテル

出席者：五十名

平成十二年四月古稀の祝賀を兼ねて集いましてより、四年を経ての同窓会でした。

暑い盛りではありましたが、皆さま変わらぬ元気な笑顔で続々と集ってみえました。

十一時三十分開会、最初にご逝去の報を受けました八名の方々のお名前が旧姓で紹介され、黙祷を捧げご冥福をお祈りしました。

つづいてご体調をくずされご来臨頂けなかった関先生より頂戴しましたメッセージをご披露し、その中の豊中高女の校歌を皆と一緒に歌いたかったとの言葉に、大御後威四方に輝き八絃一つのこと……と斎木幸子さんの指導により合唱いたしました。そして藤井妙子さんの発声により、心も



体も健康でこうした集いに参加出来たことへの感謝をこめて乾杯！ 久しぶりの会話をしみながらの食事が終わり、例年の如く記念写真を撮りました。

二部はホテル内の別の部屋に移り茶話会となり、お茶をいただきながらのおしゃべりとまたたく間に時が過ぎ、名残を惜しみつつ再会を約して散会いたしました。

幹事 安井、岡崎、槻木
次回幹事 古川（松室）、佐藤、沖中（要）、白井（塩田）以上の四氏です。よろしくお願い致します。

報告係 槻木 羊子

桜花会たより

高女八期 中村 陽子



桜花会の皆様、お久しぶりです。お元気でしたか。昨年六月の桜花会は卒業後五十五周年で尚和会より祝金を頂戴したものですから、特別企画として、スポーツプログラマーの若い女の先生に食後の休憩の後、普段使っていない筋肉を音楽に合わせてほぐし、気分爽快になったと好評でした。

桜花会に毎年参加の常連さんに加えて、何年振りかの再会、遠方よりの思いがけぬ人との出会いに、遙か遙か遠い過去の記憶を手繰り寄せ懐かしみ、刺戟を受け新しい発見に心弾む半日です。

今年も又六月六日が近づいて来ました。その日に向けて体調を整え是非参加して下さい。今年は七十四歳？

信じられない年齢になりましたが、これからもこの桜花会が散る事なく咲き続けて欲しいと願っています。

高校四期 古稀を祝う会

奥田 関子

日時：平成十六年四月三日
場所：新阪急ホテル
出席者：百五名

四期生全員が古稀を迎えたところで、四月三日、新阪急ホテルで古稀を祝う会を催しました。

朝まで降っていた雨も上がり、恩師田中恒雄先生を囲み、東京をはじめ遠方からの参加者十数名、なんと卒業以来五十二年振りの方十名を交え、総勢百五名が心ばかりのお祝いのバラ輪を胸に古稀を祝いました。

ゆつくりと話を楽しみたいとの希望が多く、今回は食事タイムと歓談タイムの時間を区切り、和食に舌鼓を打ち、懐かしいカントリーウエスタン調の音楽に青春時代を重ね、三々五々に久しぶりの話に花が咲きました。

二次会も席を移さず同じ部屋で、軽音楽をバックに、フリードリンク、喫茶を楽しみながら、カラオケ・ダンス・歓談と楽しいひとときを過ごした後、次回に元気な姿での再会を約し散会しました。

元NHKアナウンサー生方恵一氏のお言葉を少々アレンジさせて頂いて、古稀を迎えて

コキ使われたこともあり
コキ使ったこともあり
コキおろされたこともあり
コキおろしたこともあり

これからの人生、小気味よくとはいえないまでも、何事にも感動できる



若い心と、元気な身体をもち、喜寿と言わず、五十五周年に又お逢いしましょう。

高校六期 卒業五十周年記念祝賀会

北・金原

母校を卒業して早五十年、平成十六年十月九日大阪リーガロイヤルホテルにて記念祝賀会を開催した。当日は、台風接近で雲行きが怪しい天候だったが、幸い進路がそれ雨も昼前には止みホッとした。参加者が初めて百名を超えた今回、幹事の心配をよそに順調な出席で、定刻前に控えの席には全員が集まり、早くもあちこちで歓談のウズが湧いていた。

正午、司会の北さんの開会の挨拶に続き物語者への黙祷、次いで幹事を代表して金原君が、出席者への感謝と「青春の昔に返り今日の一刻を楽しんで欲しい」と挨拶した。

さらに、ご招待したサッカー部顧問だった樋口先生より修学旅行で遭遇した阿蘇山噴火にまつわる話、遅れて来られてヤキモキさせられた高橋先生の担任だった若き頃の思い出などをお聞きた。八十歳を超えたお年を感じさせない話しぶりに皆感銘。楽しく祝辞を拝聴した。いよいよ乾杯、尚和会前会長荻野君の音頭発声でしばし飲食歓談に入った。

今回は、幹事の企画によりテーブル席はクラス単位ではなく、くじにより決めた。そのため初めは戸惑っていた人も、そこは同期の仲間またたく間に、五十年前の「男の子、女の子」に戻り、大きな話し声や笑い声が、会場のあちこちから湧いてきた。会半ばで、東京など遠方からの出席者による近況報告を含めたスピーチがあり、会は一層盛り上がった。

ホテル心づくしの料理に舌鼓をうち、楽しく歓談しているうちに時間は過ぎゆき、いよいよ終わりが近づいて記念写真撮影の時間となった。人数が多いため全員での撮影は無理とあって、各クラス毎に一、四組・五、八組の二グループに分けて、小塩君の手による記念撮影となった。

最後に校歌を全員で合唱し、五年後の再会を約して約三時間に及ぶ祝賀会は閉宴となった。それでも名残つきの人々は、それぞれ二次会に流れ、いつまでも語り合った様だった。五年後にまたお互い元気でお会いしましょう。

高校十一期 卒業四十五周年同期会

吉田 和久

母校桜塚高校を昭和三十四年（一九五九年）に卒業して、四十五周年となりました。

それを記念して、新緑萌える昨年六月十二日（土）に「千里阪急ホテル」において、「記念同期会」を開催いたしました。二名の恩師と六十八名の同期生が参集し、昔の記憶を手繰り寄せ、モノクロ画面を総天然色に染めながら、懐かしい思い出話を時を忘れました。

今回は三年振りの開催でしたので、東西の遠方からや、近くに住みながら日ごろご無沙汰している皆さんと、尽きぬ話に夢中になる内に、決められた時間も過ぎ去り、後ろ髪を引かれる思いで会場を後にしました。

本年の四月には、東京でも第一回の「十一期東京支部総会」を開催するという、嬉しい話も聞いております。



関東在住の皆さんには朗報ですので、是非参加されて旧交を温めて頂ければと思います。

今回は五十周年記念ですが、中間年でも集りたいという希望が多く寄せられております。そこで来年の十一月頃に同期会を開くべく、計画をしております。世話役の会合で決めて、次年度の会報に詳細を記載する予定です。沢山のご参集をお待ちしております。

高校十六期 卒業四十周年同期会

幹事一同

平成十六年十月十日、大阪市内にあるホテル阪急インターナショナルで同期会を行いました。前日は、台風直撃で心配しましたが、当日は打って変わって好天に恵まれました。遠方からの出席者も予定通り参加され、総勢八

十七名の集いとなりました。まだまだお元気な水田先生のご挨拶、乾杯の後、食事・歓談に入りました。仕事・親の介護・孫の誕生などで、やむなく欠席された方もおられました。何十年ぶりと言う方もおられ、たちまち気分は十八歳にタイムスリップ、楽しい一時を過ごしました。中務公子さんからは、還暦記念誌の発行予定、更なる協力お願い等の報告がありました。そして、上野山寿樹君が、次期代表幹事として紹介されました。

二次会も、同ホテルの別室で、竹川貴美恵さんが所属する「ランプリング・フェローズ」による六十年代のジャズバンドを楽しまました。オーブンスペースでは、数組のカップルによるダンスが披露され、時間は、あつという間に過ぎ、久しぶりに友情を深めた一時でした。次回もより多くの皆様にお会い出来ることを、楽しみにしています。

高校二十七期

日時：平成十六年十一月二十一日
場所：プラザホテルオーサカ
出席者：八十四名

柳澤・木谷・戸田と三人続いて母校で働いている期にしては、一度も開かれることのないままだった同期会をやつと開催することが出来ました。異常気象のせいかわ十一月も末に近いというのに暑いぐらいの晴天の下、十三のプラザホテルオーサカで行いました。淀川の流れを眼下に見渡す十九階で、井上まさ先生、大塚真佐子先生、木元佳子先生、原田正憲先生、牧末男先生、柳澤千吉先生、岩井英雅先生のご出席を得て、同期生八十四名が三十年ぶりに集いました。



会が始まると同時に長年の空白が埋まって談笑の輪が出来、あつという間のひとときでした。先生方にもゆつくりお話し頂けなくて残念でした。それぞれに



話し足りない気持ちを抱いたまま再会を約して解散しました。

今回の同期会開催に際して、尚和会から補助をいただきました。お礼申し上げます。

定時制第九期同窓会

日時：平成十六年五月三十日
場所：箕面観光ホテル
出席者：十八名

平成十六年五月三十日、箕面観光ホテルにて予定通り午後六時より一泊で開催いたしました。

参加者十八名、和気藹々と宴が酣となつてくるとカラオケタイムとなり、美声の持ち主が青い山脈や、高校三年生を唄い終わるや、同時に夢多き青春時代にタイムスリップ。しかし楽しいことより苦しいことの方が多く、互いに励まし、慰めあつて苦痛・苦難を乗り越えてきたこと等々が楽しい思



い出となっている。

昔話の中でもっとも印象に残っていることに、真夏の茹でる様な暑さが夜になっても涼風も吹かず、蒸さくしい中で時には先生のすばらしい話についてウツトリと……ではなくついウトウトしてしまい、先生を悲しませることしばしばだった。冬はまた手先と足指が悴む程の厳しい寒い日も休むことなく勉学に精を出し、教養を高めた。

以上の様な影響も多少はあるだろうが、それよりも家庭や職場の事情、又は金銭的な原因であったのだろうか、同時入学の多くの友が不登校となり、次第に退学を余儀なくされたことは無念であったと思う。しかし皆んなそれぞれの経験で少々の事ではへこたれぬ忍耐力はしっかり身についたと自負できる。

懐かしい思い出話しも下火となり、宴もお開きの時間になってきたので同期会の報告へ戻します。一九九九年よ

り毎年開催しておりますが、参加者の顔触れが決まりつつあります。

「斗酒なお辞せず」といわれますが、我同窓生で大酒飲んで騒いだり喧嘩をするタイプの友は一人たりともおらんので、どうか気軽に昔の思い出話に華を咲かせに是非ご参加下さる様お願い申し上げます。

最近、忘れ物をする事と日常茶飯事、もっとすごい人はメガネをしっかりとかけているのに、どこに置いたと探し終わって己の年齢を知るタイプが増加中。我々兎に角あわただしく過ごしてきて忘れかけている日本人独特の感性である「わび・さび」を具現化したと思います。

年齢的に元氣な身体でアト何回同窓会をやることやら……。どうぞ奮起してご参加下さい。

今回初めて尚和会より同期会助成金五万円をいただき、効率よく活用させて頂いておりますので、よろしくご理解下さい。

幹事 中本賢一、中川弘士、清水充

桜塚高校旧職員有志の会、第三十四回をもって閉幕

平成十六年八月二十二日（日）午後一時より豊中のホテルアイボリーにて、第三十四回桜塚高校旧職員有志の会総会が開催され、案内状送付六十三名中二十七名が出席、近況報告を添えた欠席の返事が二十九名ありました。

本会は、元桜塚高校社会科教師の故近松淳一先生が桜塚高校から大手前高校に転勤された後「桜塚高校のその後の発展状態を知りたいの思いで」（「一」は近松先生ご文より引用、以下同）、故近藤宏先生、吉本清先生と語らい、



昭和四十六年（一九七一年）十一月二日天王寺の「知利十里」で十九名の桜塚高校OBと会を結ばれたのが発端です。第二回から第二十八回まではずっと庄内の「大北京」で開かれ、第二十九回から会場を豊中の「ホテルアイボリー」に移しました。「学校の現況を知り度い」との思いから当時現役の先生方にも声をかけ、参加者は多い年で三十四名、案内状送付は七十名に及びました。さらに、第二十九回からは、旧女子職員にも参加を呼びかけ、会の名称も当初の「桜塚高校OB有志の会」から現在の呼称に変わりました。

本会は以上のような経緯をたどりましたが、その間一貫して流れていたのは、故近松淳一先生をはじめとする有志の会全員の桜塚高校に対する「熱い思い」です。毎年の総会では、再会を祝し、桜塚高校や会員の近況を語り合い、記念写真を撮影しました。その後、「総会報告」と題して、出席・欠

席を問わずすべての会員に、近松先生のご文を冠した総会や会計の報告、会員の近況報告の文章を載せたプリント、および記念撮影写真等を郵送しました。（第三十四回総会報告書の冒頭は、元桜塚高校国語科教師の水田紀久先生の「お開き」と題するご文で飾らせて頂きました）

しかし、非常に残念なことに本会創設者の近松淳一先生が、平成十五年十一月十日に享年八十五歳で逝去になられましたのを機に、惜しむ声も多々聞かれましたが、本会を閉じることにしました。故近松先生のご生前、第二十六回総会（平成八年）のあと、近松先生・吉本先生・弓庭の幹事三人で話し合った際（弓庭は第二十四回から幹事）、近松先生より「本会を閉じる際は、本会の会計残金は全額、桜塚高校尚和会に寄付したい」との申し出があり、他の二名もそれを了承したという経緯がありましたので、最後の第三十四回総会でその旨正式に提案し賛同されました。

ここに謹んで桜塚高校旧職員有志の会より桜塚高校尚和会に、二十万四千七百十七円を寄付させて頂きます。幹事 吉本清、弓庭栄夫

『ほむら野』

高女五期 広実 輝子

戦後六十年、第二次世界大戦で日本がアメリカと戦ったことすら知らない世代も出て参りました。その六十年前の戦争末期、国内でも多くの人が空襲で死にました。

本校前身の豊中高女も一期、三期の卒業生は女子挺身隊として、在校生の四期、八期は勤労動員で軍需工場に

行き兵器を作りました。一九四五年六月の大空襲で動員中の生徒七人が亡くなり、多くの負傷者を出し八月十五日終戦となりました。

しかし、その記録は学校に残されていませんでした。当時共に生きた者の義務として、その記録を残すべきだと戦後三十年の一九七五年「ほむら野」に立つ大阪府立豊中高女学徒動員記」を三千冊刊行しました。好評を得て「平和図書館・戦争と平和・市民の記録 全二十巻」（日本図書センター）の中に入り、大阪府教育センター「大阪の文学」（近現代篇）の中にもとりあげられています。思いがけぬ余剰金で桜塚高校にブロンズの少女像「ほむら野」を贈り、慰霊祭を営み、昭和会、震災後援、アムネスティ、たんぼの会等に寄付し、この度、残金を尚和会に贈り、終了することに致しました。長く御協力頂きました尚和会に深く御礼申し上げます。

二〇〇五年三月

（ご寄付の十四万四千六百十四円は雑収入として経理処理させて頂きました。）



「第四回 尚和会東京支部総会・懇親会」

二〇〇四年（平成十六年）十月三十一日（日曜日）

前尚和会東京支部 支部長 井上 眞一（高七）



第4回 尚和会東京支部
総会・懇親会

四回目の支部総会・懇親会が昨秋十月の末、東京銀座のレストランで開催されました。支部結成（一九九七）以来、八年目となり、過去三回は会場としてホテルを利用してまいりました。今回は「銀ブラ」気分で、リラックサ・より親しみ易い雰囲気の中で、ということと、東京のど真中、銀座を会場に選びました。その甲斐があったかどうか（？）参加者は七十七名（当日欠席六名）となり、過去最高となりました。関東エリアでの同窓会員は、発足当初は千五百名位でしたが、今回、ご案内状は千八百六十七名に差し

上げました。
会には、大阪から、尚和会元会長高女一期（同窓会の原点ですね）越水ユリ様も出席され、お心のこもった激励のご挨拶と乾杯の音頭をとっていただきました。
支部の活性化につながるための、活動のモットー「同期会の開催により、同窓会の輪を拡げよう」ということで、高女四期・高四期・高七期・高十一期・高十三期・高二十九期など声をかけ合つての、同期の集いがありました。これからも、一つでも多くの同期会が併催されて、支部の発展に拍車がかかればと思います。そういうことで、初の試みとして、案内状に、卒期別名簿を、各期別に同封してみました。懐かしい名前をみつめて、会への参加を促してほしい……、そんな気持ちからでした。
学校からは長瀬尚校長（二度目）、尚和会本部から、田中会長、吉田副会長、中岸会計監査、及び初めて評議員から、前議長の高原氏をお迎えしました。校長先生からは、母校近況として「自主自律精神旺盛な気風も健在、特に昨年度は進路実績も大幅な伸びを示した」ことなど、心強い話を伺うことが出来ました。
来賓各位からは、参加者の熱気（会場のためかな？）と、協力金などでバックアップして下さい、多くの支部会員の存在の大きさに暖かいエールを送っていただきました。

懇親会には、四回目の当会も、アトラクションに、同窓生の出演がなかった。高二十九期・笑福亭仁勇（山澤健二）師匠の「大道芸」が、銀座の夜をにぎやかに色どつてくれました。四回連続の同窓生出演は大好評で、五回目以降も続けていきたいものです。
「参加しやすい同窓会」を合言葉に企画した本会の締めくくりは、全員参加の「福引」大会、仁勇師匠に再度の出番を願つて、進行役をお引受けいただきました。
話しは変わりますが、昨年は「災」という文字で象徴されたように、九月の新潟中越地震、暮れのインドネシア沖地震と、国内外で多くの方々が被災されました。同窓生の中にも、止む無く欠席された方も居られました。
総会での動議提案もあり、被災者への義援金カンパを募り、七万三千七百七十円を、赤十字新潟支部宛に送金させていただきました。（参加者の皆様、ありがとうございました。被災地同窓生の方からの、感謝のことばを頂いています）
尚和会での唯一の支部である、東京支部の活性化が同窓会の発展につながるものであることは、会開催を重ねる毎に、強く認識するものがあります。
支部の皆様におかれましても、新設の同窓会施策「同期会開催支援奨励助成金制度」「会報無料配布制」などを、有効に利用して、今後、益々「人とのつながり」が大切な時代（二十一世紀）に、支部目標でもあります「同窓生が集い、語れる機会と場づくり」「新しい同期会誕生の基盤づくり」に、ご尽力下さる様、お願いします。
支部運営につきましては、より創



◎支部連絡先
一、〒二五三〇〇五三
神奈川県茅ヶ崎市東海岸北
三二五二七 井上 眞（高七）
TEL・FAX
〇四六七・八三二四〇四

造的に、新世代にふさわしい支部づくりのために、新しい息吹が必要であると考えておりましたが、平成十七年度より、新リーダー（支部長）・斎藤良和（高十一期）さんの下、十一期以降卒の実行幹事、役員の方々にお引受け頂くことに致しました。
「創会」時代から、十数年に亘り、ご指導、ご協力頂きました、諸先輩、同窓生の皆様、並びに長い間、支部の幹事役員を務めていただいた方々に、誌上をお借りして心より厚く御礼申し上げますと共に、新しいスタッフ一同につかましても、尚一層のご支援とご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。
終わりに、今回も多数の支部会員（二百十三名）より、支部への協力を賜りました。厚く御礼申し上げます。
第五回は二〇〇六年に開催します。

同期会予告

高女四期生会

日時：平成十七年五月二十三日（月）

受付 十一時三十分より

写真撮影 十一時四十五分

開宴 十二時

場所：ホテル阪急エキスポパーク

本館2F「月光」

〒五六五〇八二六

大阪府吹田市千里万博公園1-5

TEL〇六六八七八一五二一（代表）

会費：一〇、〇〇〇円

十七年度幹事

田畑 照野（旧伊藤） 長岡 利子（旧炭木）

岡田 貞子 山川 良子（旧河方）

酒井百合子（旧横尾） 大久保慶子（旧吉田）

高女四期生のみなさんへ

お元気ですか。昭和二十年終戦の年に卒業してから、はや、六十年になります。この記念すべき同期会を、皆さんと共に開催いたしたく、ご案内申し上げます。

卒業後の六十年は、それぞれ、終戦による社会や教育の急変に、人々の考え方の変化に揉まれてすごした人生

一、〒一五七〇〇七四
東京都世田谷区大蔵
五二一三 斎藤 良和（高十二）
TEL・FAX
〇三三四一五九八八



でしたが、ここでは、女学校時代を思い出しましょう。

昭和十五年、乙女の夢のように美しく、完成したばかりの新校舎に、スマートな制服・制帽（ステープル・フアイバー混紡）、おかつば頭で入学。正門、八絃門、赤瓦の屋根、薄緑の壁、三つの鐘の音、桜花透かしの外壁、恩露園、恵風園、報国神社、奉安殿、体育館（薙刀が二階に立ち並ぶ）、弓道場、農作業場（生野仮校舎とか）、南庭の芝生に他、校庭の隅のブランコなど懐かしい風景が、つぎつぎと、頭に浮かびます。

「明朗・敬虔・奉仕」の教えに従い、「女子鑑」の講義は、特に力が込められていました。い・ろ・は・に・ほの五組は尾崎・竹谷・酒井・直江・中村の担任先生方のもとで、毎日の全生徒での清掃作業、講堂地下の食堂給食、寒稽古、階段教室での音楽、針供養、など思い出は尽きません。二年生になると、全国統一制服の新一年生（五期生）の入学で一年生・五年生まで揃い全校生による創立記念式が行われました。

大東亜戦争開戦、竹谷先生出征、給食調理当番制。三年からは、防空演習、体力検定、開墾、分列行進、スカートからモンペへ、砂袋を負って行進、同窓会館での合宿など戦時体制色は、益々、濃厚になり、四年で修了して受験、工場学徒動員、臨時教員養成所の設置等、めまぐるしく時代は変化していききました。

空襲、焼夷弾の雨、豊中の一t爆弾落下。卒業式後も相変わらず工場動員は続きました。切羽つまった状況の下、私たちは「国と共に死す」覚悟をしていました。そして、八月十五日終戦。

皆さんも、さまざま思い出されることとおありかと思えます。そんなこと、こんなことを語り合いました。戦中・戦後の思い出したくないつらいことも、半世紀経た今日では、苦しみは薄れ、軍国乙女の少女時代にも、楽しい思い出がいっぱいあったように思えます。

このたびの四期生会において、変わらぬ友情を温め合い、これからも助け合う事を誓い合います。では、皆様の笑顔を、お待ちしております。

桜花会（高女八期）

日時：平成十七年六月六日

午前十一時受付

十一時半集合写真

場所：千里阪急ホテル
会費：一〇、〇〇〇円（予定）

今年もイベントを企画しました。私達の後輩の知る人ぞ知る、知らない人は全く知らない芸人さんです。楽しみにして居て下さい。我々大先輩と云う事でかなり緊張されています。暖かく迎えてあげて下さい。

高校七期生「卒業五十周年七期会」

日時：平成十七年十月十六日（日）

午後一時～三時

会場：リーガロイヤルホテル

「菊の間」

詳細は又御案内致しますが、前会の四十五周年の盛会に劣らず皆様の多数の御出席を御願い致し期待して居ります。

尚、クラス世話人の方々も、何卒よろしく御協力下さい。御願い致します。七期生理事一同

定時制二十五期生同窓会

中島・高岸・東野学級

日時：平成十七年八月十五日（日）

午後四時

場所：ホテルアイボリー

会費：八、〇〇〇円

連絡幹事

出口敏男 〇六・三三・四二・九〇七

大町裕次 〇九・一三・六二・七四・四〇二

お便りから



平成十六年四月から平成十七年三月までにお送り頂いたものの中から掲載しています。

旧職 寺本 敏夫

いつもご連絡お世話様です。桜塚高は、私にとつては母校のようなものです。尚和会の発展、切に願っています。

高女二期 進藤 浩子

本年、外地で病み帰国出来なかつた主人のしのぶ会を明大一一〇年館の二十三Fですませ、母校京大からも友人が見えたり、あとも次々としなければならぬこと多く、八十歳に近い自分との戦いで疲れております。せつかくの会ですが失礼致します。皆様によりしく。

高女二期 高木 春子

役員の皆様にはお世話になり、いつも感謝しております。十六年度の総会には出席出来ず残念でした。十七年度の総会を楽しみにしております。

高女二期 近藤 等子

お骨折り有難うございます。私達

は間もなく八十歳。でも皆様割合若く見えます。当日都合がわるく残念ですが欠席致します。御盛会をお祈り致します。私の電話番号が違いますのでよろしく。

高女二期 元山葉津子

旧姓川島初子、傘寿を目前に、一度母校を訪れたいものです。

高女三期 俣野 加代

なつかしい校章のある美しい会報、何時も有難うございます。又、来年の号の来るのを楽しみに待っております。

高女三期 酒井 弘子

平成十六年五月一日付の会報をありがとうございました。充実した内容で楽しく拝見しました。先生、生徒の皆様の御努力で学力もUPとの事、嬉しく拝見しました。私達は木造のあの校舎で高卒の方より二年も多く勉強させて頂きました。良い友を得て、喜寿を過ぎた今も一番大切な友として、仲良くさせて頂いております。感謝。そして母校の益々の発展を祈っております。

高女七期 槻木 羊子

いつもお手数をおかけ致し申し訳ございません。遠方もさることながら土・日曜はどうにも都合がつきにくく、いつも勝手をいたしご迷惑をかけしております。お許し下さい。

高女七期 森山 秀子

尚和会会報をありがとうございました。母校の卒業生、在校生のご活躍を頼もしく拝見しました。

高四期 松田 祝三

尚和会々報記事に校正ミスが目立つ。もつと注意を！

高六期 大塚 禮子

母校を巣立って五十年。合わせて古稀を迎えました。それぞれに頑張張り、社会に尽くし少し羽根を休めます。富岡多恵子様、芸術院賞祝します。

高六期 長谷川由里子

六期生同窓会（卒業五十周年記念）が十月九日大阪リーガロイヤルホテルで開催され、出席させていただきました。約百名の方々と来賓の先生とで思い出話に花が咲き、名残をおしんで次回を約束して帰途につきましたが、台風二十二号の影響で名古屋にて一泊しました。

高六期 廣島 喜子

日本現代婦人会会員、京都市芸術文化協会会員、白川 淑（よし）という筆名で詩を書いています。

高八期 大内 雍子

役員の皆様お世話様でございます。大阪を離れ二十年以上たつてしまいましたが、今仙台でヨーロッパ刺しゅう、子供手芸教室、文化センターのボランティアをしています。

高八期 芝原 玲子

身体が不自由となり、遠出は出来なくなりました。

高九期 毛利 禮三

会報誌のご送付いつもありがとうございます。大阪を離れてうん十年、すっかり今浦島状態ですが、会報が届く度に、一人

でも知っている人はいないかと探すのを楽しみにしています。母校、尚和会の益々の発展を祈ります。

高九期 上野 由美

会報ありがとうございます。表紙の色はもう少し静かな色の方が上品だと思いますが……。

高十期 山口寿三枝

いつも会報ありがとうございます。茶道部の五十周年記念式典が平成十七年八月二十日KKRホテルオーサカで行なわれます。皆様、暑い時ですが一人でも多く御参加下さい。お待ちしております。

高十一期 上野山眞杉

未だRETIREもせずに毎日仕事をしています。

高十一期 竹島 護

卒業してもう何年になるのでしょうか？「尚和会報」を頂くと、当時を思い出します。事務局の方、ご苦勞様です。

高十一期 林 千穂子

カラーの美しい表紙、内容、興味深く拝読いたしました。役員の皆様有難うございます。

高十三期 唐沢 昭

まとめて十年会員とか、終身会員制での振込みも検討に値すると思います……。

高十五期 福士 凱彦

教職について早や三十七年、まだ

まだ「教育は愛」をモットーに頑張ります。母校の益々の発展を祈ります。

高十六期 渡邊 源治

もうすぐ六十歳！ それまでには何とかしなくてはと、毎日忙しく働いています。元気と健康が第一と思っています。

高二十期 高橋 陽子

会報協力金納入者名簿に、同窓生や先輩の名前をみつめて、お元気かなとなつかしくなります。(旧姓市原)

高二十一期 小泉はるみ

三十五年振りに正面玄関のしだれ桜を目にし、校舎の様子は昔の面影をなくしても、みごとに成長した満開の桜に感激しました。

高二十六期 白木万里子

在学中、音楽部だった私は、今春より地域のコーラスサークルに入り、三十年振りにハーモニーを楽しんでいます。(旧姓木村)

高二十六期 小堀 雅子

なぜ桜塚卒でもないAVALONとかを呼ぶのですか？ 桜塚校内でよくみた「赤い風船」は卒業生ですか？

高二十六期 木下 宣子

ここ数年、会報が届かず寂しかったのですが、久しぶりの会報はカラーページになっており、二重に嬉しく拝見しました。書道部OBは、原田先生のもと今も仲良くさせて頂いています。

高二十八期 大江さやか

二〇〇六年には高卒三十周年を催す予定です。ぜひ来て下さいね！

高三十期 門田 晃代

娘の就職、息子達の下宿と子育てが終わりに近づく、姑や両親の介護が始まる……！ 暇を見付けては級友達とランチ、お茶をしております。

高三十期 松本三保子

最近、尚和会からの連絡かと思わせる素振り、先生方の情報を聞き出し、広告料を取ろうとする業者の電話が多くあるようです。もちろん断りましたが。

高三十一期 前田 礼子

昨年双子を出産し、二十歳から〇歳まで六人の母になりました。ミニミニ同窓会はたまにしていますが、もっと多くの方に又会いたいです。

高三十二期 室 佐和子

野球部員の皆さんへ。〃大会〃応援しています。ガンバレ！

高三十五期 森本 智子

平成十六年春、甥っ子が桜塚に入学しました。今の高校の様子を色々聞いて、昔を思い出しています。楽しいです。

高三十六期 西森亜津子

夫の転勤に伴って七年間住んだ愛知から移りました。三度目の転居ですが、移る先々へ届けられる会報をとてもありがたく思います。

高三十六期 村上佳津子

通っていた中学校・小学校共に合併でなくなり、気がつくとう大学の校歌も変わっていました。高校の校歌だけがまだ生きています。またみんなで歌いたいものです。

高三十七期 松下 和子

今年四人の子どもの長男が中三になり受験生です。桜塚めざしてがんばっていた自分の中三時代と違って、のんきな長男にため息……。

定七期 岡島 勇

昨秋「冬のソナタ」ロケ地巡りの春川・ソウル三日間の旅に参加しました。今年は日韓国交正常化四十周年にあたり、愛知万博などをきっかけに益々交流が盛んになることを祈っています。

定七期 佐々木好一

いつも会報ありがとうございます。お世話して下さる役員の皆様のエネルギー、「同期会総会」の折の援助を頂き、又、そのエネルギーが時の流れと少々色あせたり、風合いが変わったり「夜桜」ですが、「GW」なのにどこにも行かず、会報を隅から隅まで読んでいます。幸せなのか不幸なのか、でも、あれはあれ、これはこれでいろいろあつての人生でしょうね。

定十四期 木花 護

母校を卒業して四十周年を迎え、下川先生を囲んでクラス会を五月十五日に箕面観光ホテルにて開催しました。開催を三年から二年に短縮しました。

平成十六年 物故者芳名

(平成16年1月1日～12月31日まで)

旧職員

上田 健一 16・2・28
富山 敏郎 16・9・1

高女一期

小野澤裕子(横田) 16・4・9

高女三期

森嶋 芳子(井上) 16・1

高女四期

清瀬 郁子(住田) 16・8

高女五期

高木美代子(山下) 16・2・8

伊藤 久子(井上) 16・8・10

原 博子(幸松) 16・10・27

荒井佐念子(中村) 16・12・8

高女六期

福永美代子(大西) 16・1

別所よ志子(奈良) 16・3・1

ヘリグトン東洋子(村上) 16

高女七期

須田佐代子(泉谷) 16・6・13

高三期

吉富 義洋(吉富良雄) 16・8

高四期

田中 専一 16・7

橋本 博子(垣田) 16・6・28

高六期

奥野 正文 16・2・7

畑 幸代(一山) 16・1・22

高七期

吉村 忠義 16・3・26

高一六期

殿村 富 16・9・17

定四期

生井千鶴子(春野) 16・5・6

(尚和会宛に報告がありました方のみ掲載)

◆協力金をありがとうございました◆
(金額は内人合計)

(金額は納入合計額)

[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]

☆追記

以上掲載の内、二重に納入いただいた方三十九名（主に東京支部会員）がおられます。この二重納入分は一旦預り金として会計処理し、翌十七年度分の会報代・協力金として入金処理いたします。

返金等を希望される方は、尚和会宛ご連絡ください。

総務担当副会長（高十一期） 吉田和久
財務担当副会長（高十三期） 細川和彦



校歌作詞者永田俊夫氏（高5期）



平成十六年度総会・懇親会

行事委員 柳井真知子

平成十六年度の総会・懇親会は、五月十六日（日）にホテル・アイボリーにて開催されました。

来賓・会員合わせて、八十五名の御参加を頂き、終始和やかで明るく楽しいパーティーになりました。

中でも印象に残ったのは、わが母校のあのすばらしい校歌を作詞して下さった、高校五期の永田俊夫さんが来られており、当時の担任の井上まさ先生より御紹介して頂いたことです。

又、校歌の作詞・作曲が、私達の先輩であることに驚き、それをお聞きして校歌によりいっそう親しみを覚えました。

さて、昨年のアトラクションの出演者は、卒業生の方ではなかったのですが、男女三人のヴォーカルグループの「アヴァロン」の皆様で、とても華やかでリズムミカルな舞台に会場も盛り上がり、皆様に喜んで頂きました。今年は高校三十二期の日比浩一さんをお招きして、バイオリンの演奏をお楽しみ頂けるものと思っております。どうぞ皆様、特に三十二期の同期の方々、お誘い合わせて御参加下さいませよう、お願い致します。

平成十六年度新年理事会

行事担当副会長 中村千穂子

平成十七年一月十六日（日）ホテルクライトン新大阪で新年理事会が開催されました。

校長、教頭先生をはじめ学校の



方々六名と会員五十名の御出席を頂き、誠に有難うございました。

校長先生の御挨拶に始まり、続いて会長の挨拶の後、行事委員会の事業報告では、今年の尚和会総会のアトラクション出演者紹介をいたしました。

バイオリニストの日比浩一さん。高校三十二期生で名古屋フィルハーモニーのコンサートマスターです。日比さんは第三十二回全国学生音楽コンクール西日本大会で二位に入賞の実績をお持ちで、実は去年もお願ひしたので今年こそ是非にとお願いし、出演して頂くことになりました。続いて総務・財

務・広報担当の副会長の事業報告の後、楽しい懇親会が始まりました。食事の終わり頃から、後輩の落語家、笑福亭仁勇さんの司会でビンゴゲームが始まり、賑やかに楽しく過ごしました。

最後はいつものように全員で校歌を斉唱して新年理事会は無事終了しました。

何かと恐ろしいことが多い世の中、皆様の御健勝と共に母校の発展を祈るのみです。

編集後記

今号より紙面・字体ともワンサイズ大きくしました。掲載字数で約一万字分ほど増えたことになりました。皆様からいただいた原稿もほとんど全て掲載出来るようになり、同期会の集合写真も少しは見やすくなりました。

▼昨年末で定年退職し、この五十三号誌面はのんびりと編集作業をしようと考えていたところ、再雇用と相なり、この二月、三月は帰宅後夜遅くまで、原稿チェック、割り付け作業に時間を割きました。出来栄について、ご意見ご感想をお待ちしています。▼今年の五十七期卒業式で、長瀬校長は涙声で饒のことばを述べられ感動しました。三年間のお務め本当にご苦労様でした。

▼若い期からの投稿をお待ちしています。尚和会活性化に若い期の力をお貸し下さい。

大島光昭